

審議会等の会議結果報告書

【担当課】こども課

会議の名称	第2回茅野市こども・家庭応援会議		
開催日時	令和7年2月21日(金) 午後7時00分～午後8時45分		
開催場所	茅野市役所 8階大ホール		
出席者(名簿順)	<p>【委員出席】 市川純章委員、永嶋陽子委員、奥原貴美子委員、伊藤深雪委員、竹内ひかり委員、小澤佳奈委員、柳澤由加里委員、伊藤和巳委員、舛田しのぶ委員、森美奈子委員、竹花顕宏委員(代理)、伊藤美奈委員、小林俊男委員 【市側出席】 山田教育長、五味こども部長、井出健康福祉部長、小穴健康づくり推進課長、北澤こども課長、笛岡幼児教育課長、渡辺学校教育課長、五味こども係長、両角こども・家庭支援係長、伊藤こども・家庭相談係長、白鳥統括支援担当、飯島こども育成担当、高橋こども係主査</p>		
欠席者(委員のみ)	小林あかね委員、原田正樹委員、石井聖文委員、小口直喜委員、湯田坂美穂委員、春山晴夫委員		
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	傍観者の数 0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
こども課長	司会進行		
副会長	1 開会		
教育長	<p>2 教育長あいさつ 3連休前の非常に貴重な時間ですが、お集まりいただきありがとうございます。本会は、「茅野市たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例」に基づき、地域ぐるみで子育て・子育ちを応援・支援していくための、「こども・家庭応援計画(どんぐりプラン)」の進行管理を行う場です。</p> <p>昨年に開催した第1回会議では、第3次どんぐりプランの事業内容と進捗状況、今後の進行管理について審議いただきました。本日は、どんぐりプランの中に位置づけられている「子ども・子育て支援事業計画」について、ここで第二期計画が終了しますので、来年度からの第三期計画(案)について審議をお願いいたします。</p> <p>急速な少子化の進行や、共働き世帯の増加、多様化する価値観・社会の中で、子どもたちを取り巻く環境もめまぐらしく変化をしています。この子ども・子育て支援事業計画は、地域における子育て支援事業計画を実施するための子ども・子育て支援法に基づく法定計画となります。詳しい内容は後ほど説明させていただきますが、これまでの事業の一層の充実のほかに、新しい事業なども追加されています。</p> <p>保健・医療・福祉・教育分野は目標指標といった数値だけでは課題の解決や本質に迫ることはできません。数値だけにとらわれず、それぞれのお立場から子どもたちを取り巻く子育て環境や課題、子どもを支えるための活動等、様々な視点からのご意見を頂戴する中で、子育て・子育ち施策の充実に努めてきたいと考えています。</p>		

	本日はよろしくお願ひいたします。
事務局 副会長	<p>3 会議事項</p> <p>(1)審議会等の会議の公開の確認</p> <p>前回同様①本日の会議を公開とすること、②会議録の公表を市ホームページでおこなうこと、③公開する議事録の発言委員の氏名を「委員」として記載して公表してよいかを委員へ確認</p> <p>(会長到着まで、副会長が進行)</p> <p>— 承認</p>
幼児教育課長	(2)第三期茅野市子ども・子育て支援事業計画(案)について 【資料1~3】により、説明。
会長	事務局から説明があったが、これは、事前に審議したのですよね。保育園関係者でしたか。
幼児教育課長	事前に、保育所運営審議会で審議いただいている。
会長	<p>その審議員の皆さんで一度見てもらっているが、ここで別な観点を持つ皆様もいらっしゃるので、お気づきの点があれば。なお、これに関しては国から策定を義務付けられているということから、期限もあるため、修正はこの場で済ませたいという意向です。</p> <p>また計画の文言が直接変わらなかったとしても、今度の事業などに反映できるので、関連すること、情報提供含め広くぜひよろしくお願ひします。</p> <p>では、私から。少し気になる点。資料14ページの放課後子供教室について。茅野市では類似事業として地区こども館を設置している。これは素晴らしいのだが、小学校のすぐそばに併設してあるにも関わらず、一旦家に帰ってからでないと利用できないと慣例的にしていて、これでは学校の側にある意味がないように思うが、その辺は市としてどういうふうに把握しているか。</p>
こども課長	地区こども館の利用については、それぞれの地区こども館運営委員会で運営している。学校から直接来ていいとしている地区こども館もあると聞いている。市から何かしら指導していることはない。それぞれの地区こども館運営委員会等々で検討されてやられている部分もあると思う。
委員	玉川は、必ず家に帰ってからという指導はしていない。他はわからないが、玉川小学校の場合は、直接行って閉館までいられるようになっている。
会長	自分は豊平で、豊平小学校は帰宅してから利用とずっと言われていて、何とかならないかと思っていた。ただ、各地区でやり方がいろいろ違うということを情報共有できると進むのかなと。どんぐりネットワーク茅野でも、子育て部会などの横の繋がりが弱くなっていて、地域間で協働ではないが情報共有が必要だということを感じている。
委員	中身の話ではないのだが、この計画は第二期計画の進捗やその結果を受け

	て第三期計画を作るという理解でよいか。そこで、第二期の中で何か課題や進捗が思わしくないなどの情報はあるか。また、前回の会議で、今後の進め方として、ニーズ調査やパブリックコメントを予定していると話していたように思うが、それらをどう第三期計画に反映したのか、その辺の繋がりについて補足や説明いただきたい。
幼児教育課長	第二期計画については、毎年進捗状況をこちらの会議でも報告させていただいている。また、今回の第三期計画策定に当たっても、今年の分はまだ出ていないが、第二期の五年間の実績を見ながら行った。ニーズ調査については、この秋に、保育園・小学校を対象に学童クラブ利用ニーズを、保育園のニーズについては未就園児、在園児お保護者を対象に行い、そちらを反映させて計画をたてた。
委員	その辺の情報は何かないのか。この場では共有されないので。
幼児教育課長	申し訳ありませんが、ニーズ調査については積算資料として手持ち資料となっていて、公表はしていません。
委員	資料11ページ⑯親子関係形成支援事業のノーバディズ・パーフェクトプログラムについて教えてもらいたい。
こども課長	こちらのプログラムは、参加者が日頃の悩みや関心あることをグループで参加者が中心となって行う講座。講師から話を聞く機会もあるが、一番は親同士が子育てで苦労することや、それをどう解決しているのかなどを情報交換というか、話し合うことによって親子関係を形成していくプログラムとなっている。
会長	違った観点から意見として、ニーズ調査について、計画を立てる際の供給量を図るためとしているが、その背景のようなものまで調べているか。例えば仕事が忙しくて長時間労働するために預ける場合に、それは保護者が希望しての労働なのか、労働せざるを得ないので不本意だが預けなければいけないくなっているか。そうすると、茅野市として、計画自体はニーズに対しての供給となるが、背景としては、働き方改革や地域内の事業所の取組姿勢として改善すべき問題という観点もあるのではないか。そういうところは見ているのか。
幼児教育課長	ニーズ調査については、年齢ごとにそれぞれの家庭の就労体系を見て計画へ反映している。ただ、仰るように、なぜ就労になっているかというところまでは把握していない。貴重なご意見なので、今後検討ていきたいと思う。 保育園の関係は、今までやはり待機児童が多かったということで、国で対策をしなければならないということで、事業が定められたという流れ。
会長	国も同じですね。根源を見ているのかどうか。対処療法的かもしれない。
委員	地域子ども・子育て支援事業についての広報。先ほどの親子関係形成支援事業もとても素晴らしいと思うが、これを具体的に進めていくと自分で自発的に動かなければ成立しない。これまでの事業や新規事業など、そういうことを知らない・認知されない方が多いと思う。そういう点で、広報の仕方をどういうふうに考えているか。

こども課長	この事業についてはこれまで継続して行っているもの。広報としては、市のラインや、保育園・小中学校の保護者へは連絡や情報を発信するアプリがあるのでそれを活用している。また、市ホームページ等にも掲載させてもらっている。
会長	今の指摘は大切な視点だと思う。要するにどう展開していくかということ。どんぐりネットワーク茅野の活動でも感じていること。例えば、子育て部会というものを各地区に作って、地域で展開している。だが、茅野市全体の広域にわたる活動をしている団体とは直接的に繋がっていない。そこがうまく繋がれば、パートナーシップで情報共有して地区の展開にも繋がるのかなと。このように、計画を立てて、国の要求には答えたけれども、地域展開をどうしていくかについても考えていいのではないか。
副会長	表記について。資料14ページに放課後子供教室とあるが、これでいいのか。
こども課長	この事業名については、国で定められている名称なので、そのまま使っている。
副会長	せっかく茅野市で考えているのだから、子どもに優しい表記にしてはどうか。
こども課長	先ほども説明させていただいたが、茅野市では放課後子供教室という形は実施していない。今後、もし実施することになれば、表記についても考えて行きたいと思う。
委員	<p>資料8ページの養育支援訪問事業について。これは、必要な家庭が手を上げるのか、学校や保育園等から気になるということで上がってくるのか実態を知りたい。</p> <p>また、量の見込みの算出方法について、年度によって随分違うことを改めて気づいたが、これは平均値だと思うが、どのように算出しているのか。これだけあれば十分というものなのか、他にあるのか実態を聞かせていただきたい。</p>
健康づくり推進課長	<p>養育支援訪問事業は、生まれてすぐというか、乳児期が対象。やはり、一番大変なのが乳児期なので、助産師さんや保育士さんに入ってもらい、育児の慣れるまでを支援というか見守りのために、1歳になるまでを訪問している。年によってケースがたくさんある年とない年とがある。</p> <p>量の見込みの数については、(旧)の人数が多くなっているが、これは、事業がこの養育支援訪問事業と資料10ページの新規事業:子育て世帯訪問支援事業に家事部分を移したからである。数については、難しいところがあるので、おおよその数ということで平均させてもらっている。</p>
委員	ありがとうございました。追加になるが、資料6ページの子育て援助活動支援事業について。援助してくださる方が年々増えているという話だったが、要因や、どういう方が増えているかなど実態を知りたい。
こども課長	援助会員が増えていることについて、毎年援助会員を募集して研修を受講してもらい援助会員になってもらっている。毎年繰り返しているので、毎年増えていることになっている。

委員	関心のある方がだんだん増えているという風に受け取っていいのですね。わかりました。
会長	これについて、今の話を聞くと勝手に増えていくという数字というふうにも聞こえるが、大丈夫か。つまり、登録名簿だけが増えていて、活用はされているのかという評価はしているのか。
こども課長	登録されている方は12月現在で45名。ただし、ファミリー・サポートについては、援助したい方と援助してほしい方のマッチングが必要。会員数が多ければ、マッチングの可能性が増えるという利点もあるが、実際は都合が合わないなどがあるのでマッチングがうまくいかないこともある。そのため、この45名が全員活動中かというと、そうではない。
会長	確かにマッチングなので、少ないことがいけない、多いからいいというわけでもなく目安がない。それに過剰なコストがかけなければ、あつたらあつただけいいということかもしれない。 また、先ほど指摘されたことは、おそらく弱者救済というか、当事者が声を上げられるかという話だったと思うが、これについては、第3次どんぐりプランの中間見直しで強化させた点。受け皿というか、対応策を充実させることも重要だが、助けが必要な方をピックアップする方も手厚くするべき。それを充実させていくということは、中間見直しに盛り込まれたが、どのようにかは今後の課題。ただ、問題意識としては認識して中間見直しの際に多く議論が出たところ。乳幼児であれば、先ほどのように家庭訪問などがありそこでピックアップできるが、ある程度年齢がいくと、繋がりが消えて見つけにくい。例えば子ども食堂など、いろいろなところでピックアップできる活動をしている人がうまく繋がることが重要だという話はでている。何かその辺で、実施が始まっているはあるか。
こども課長	基本的に現在行っていることになるが、育ちあいのでは、皆さんからいろいろと相談をいただいている。情報収集という部分では、小学校、中学校、保育園、また0123広場を利用の方、公共サービスを利用されている中でも、支援が必要な方があれば、拾い上げ、支援に繋げているという現状。ですので、これ以上何かあるかというと、すぐには思いつかないが、そういういた様々なチャネルを使って支援に繋げていきたいということは貫してございます。
委員	資料14ページの放課後子供教室について。放課後の子どもの居場所があるということは大変いいことだと思うが、(旧)の記述に、公共施設再編計画とあわせて検討とある。再編というと、改廃・統合というふうに思ってしまうのだが、(新)ではこの先5年は地区こども館が10か所となっている。これは、10か所確保できるということなのか、それとも減ってしまうのか。
こども課長	こちらについては、現在子どもの居場所ということの検討をしている。その中で、公共施設再編云々もあるが、子どもたちにとってどういった形がいいのかを中心に考えて行きたいということで、現在は具体的には決まっていない。
委員	一応はこの量を確保する方向ということでいいか。

こども課長	現状はその通り。ただ、もしかすると今後の検討の中で変わることになれば、この計画の方を変更させていただくことになっていくかと思う。
会長	<p>他にいかがか。内容について特に意見が無ければこれで承認ということでよろしいか。</p> <p>— 意見なし</p> <p>では、この計画(案)は承認ということで、進めさせていただく。ありがとうございました。ここで審議としては閉じる。</p>
事務局	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永明小学校学童クラブ移転について、当日資料により説明。
会長	最後に、ここに集まった機会ですので、皆様のポジションから見える、情報共有など、一巡して一言いいただきたい。
委員	<p>読みーむinちのから</p> <p>読みーむinちのは、読書のまちづくりを始めて、今年8月になると27年目に入る。ただ、コロナ禍があったため、年に25周年記念事業ということで、7月に記念講演会、11月に記念式典を計画している。パートナーシップ、公民協働ということで、市からの支援、市民からの応援のおかげで四半世紀続けてこれまでありがたいと思っている。</p> <p>なかなか家庭に踏み込めないこともあります、全家庭に読書を根付かせたいということは27年たっても難しい。</p> <p>ファーストブック・セカンドブック事業はこれからも今まで通り継続したい。現在、会員の高齢化が進んでいて、若い力をこれからどう確保していくかが一番の問題として検討しているところ。今、立ち上がった頃にファーストブックをもらった世代が親世代になっているので、もう少し踏ん張って、若い世代、中高生にも声がけしていけたらと考えている。なかなかいい案が見つからないので、またアドバイスをいただければありがたい。</p>
会長	そういう呼びかけはPTA、市PTA連合会ができるかもしれないですね。
委員	今年は周年事業もあるので声がけをしていきたい。ありがとうございました。
委員	<p>茅野市食生活改善推進協議会から</p> <p>食改では、小さい子どもの乳幼児健診などで、こういう食事を食べるといふうに会員が関わっている。</p> <p>近年感じるのは、お母さんたちの考え方方が昔と変わってきていること。今は、インスタントなど便利なものもたくさん出ているせいか、手作りの食事を提案したり、相談に乗ったりしても、昔のように納得したり、それを聞いて安心してくれたりするお母さんが少なくなった。それでも、こうすることを伝えていくことは必要だと思って活動している。やはり子どもにいい環境を作つてあげられるような大人になりたいと思って活動している。</p>

委員	<p>茅野市スポーツ協会から 先日諏訪地域のスポーツ協会の連絡会議があり、そこであがつた中学の部活動地域校について各地域の進捗状況をお話したい。</p> <p>岡谷は検討委員会が設置要綱されたが特段動きは無いよう。茅野は現在加盟団体・指導者へアンケートを実施しており、それをみて検討予定。原村・富士見は中学校が1つということで、町村で連携してモデル事業として活動を始めたよう。下諏訪は町の各部専門部が対応しながら指導者を当てていくよう。諏訪は卓球に視点を絞って、卓球協会が主になって指導に入っているよう。</p>
会長	この部活動の地域移行というのは、教員の負担を減らすという話もあるが、どういう流れなのか。
教育長	<p>学校部活の地域移行は、わかりやすく言うと学校部活というものが今後無くなってしまい、地域でスポーツを行っていくということ。その理由として、当初は教員の働き方改革等いろいろ言われていたが、それよりも少子高齢化社会の中で、今のままでは子どもたちのスポーツが部活という形では維持できなくなるから。その中で、地域で子ども達のスポーツを担っていくという考え方。各市町村非常に苦労している。茅野市は、いくつかのスポーツで心ある指導者によって受け皿ができつつあるので、これを広げていきたい。また、もう一つの問題が、指導者へのお金の問題。これは国からの補助が今のところ見込めないという現実がある。ただ、今年1年で大きく歩を進めたいと考えている。参考までに、諏訪地域ではないが別の市町村では、指導者の7~8割が実際は教職員であるということも。今と変わらないというか、昔の社会体育の考え方。そのような中で、皆さんのご協力を得ていかなければならぬと思っている。</p>
会長	学校から切り離していくのだが、今は移行期で支援をしていくということで地域移行としているのですね。将来的に共同で行う未来があるのかもしれない。部活動をしたくて先生になった人もいると思うが、やってはいけないというではなく、実際はそのような方がボランティアとしてやっているのですね。
委員	<p>茅野市子ども会育成会連絡協議会から 茅野市リーダースクラブについて、高校生主体のクラブなのだが、ここ最近高校生が5,6人しかいない。4月になると、3年生が卒業して1,2年生が主体となって活動していく中で、ジュニアリーダーという中学生がどのくらい参加してくれるか。後継者の確保が課題となっている。クラブは、子どもたちが外で遊ぶ機会を作りながら、大人が企画するのではなく、子どもが主体となって計画を立て活動することを大切にしている。最近は、スマホ依存症という言葉があるように、子どもたちが家の中でゲームばかりしてしまう。一概にそれを悪いとは言わないが、高校生のお兄さんたちが小学生たちを1泊2日のキャンプに招待して、すべて子ども主体で活動する機会は大切だと思う。また、子どもたちがそういったところで、遊べる場所の確保も今後必要だと思っている。例えば私たちがいつもキャンプしている自然の森も、お風呂が何年か前から使えず、今後も改修が難しいといったところで、だんだん子どもたちが外で遊べる場所が無くなってしまいかないようにしてもらいたい。</p>
会長	ニーズが少ないから要らないと判断していいかということだと思う。ニーズがなくなる要因を考える必要もある。現状に合わせていくだけがゴールではな

	い。そういうものこそぜひ残していきたい。
委員	<p>主任児童委員会から</p> <p>この計画について、中身はとてもすばらしいと思う。ただ、先ほどもあったように、周知する方法について、市では必ず広報だとか、アプリだとか言われるが、果たしてそれを使いこなして、情報を得られているのか疑問に思う。情報は自分から取りに行かなければならないのかもしれないが、どうやって知らせて行くのかは本当に大きな課題だと感じる。</p> <p>主任児童委員としては、地域の方と交流して話を聞く機会もあるが、例えば、他市町村では、乳児家庭の訪問事業に主任児童委員が同席することあるそう。いつも虚しくなるのだが、私たちの役割は、何か問題がある家庭などを発見したら関係機関に繋ぐということだと思うが、実際に主任児童委員から関係機関に繋いだ実績はほぼゼロ。私たちは各地域に置かれているが、自分たちの目でみて発見することは皆無に等しく、その中で見守ると言わざるを得ない見守ればいいのか悩ましい。学校を訪問して校長先生と話す機会もあるが、授業を参観して気になる子がいても、個人情報の問題もあり、なかなか情報共有してもらえることはない。情報の共有がどこまで可能なのかということを、主任児童委員の立場として考えている。</p>
会長	<p>可能なら乳児訪問に一緒に行ければ、地域のそういう役割の方ですから、身近になっていいかもしれない。職員も、楽になってパフォーマンスが上がるかもしれない。また、情報発信については、どんぐりネットワーク茅野に情報部会というのがあり、かつては、子育てに関する情報が足りないとということで独自サイトで情報発信を盛んにやっていたが、近年は市の情報発信の充実が進んだことで、情報発信のサポートを行っている。便利なものや、あるものを伝えないともったいない。何かテーマ性のある活動をしている人たちがお互いを知ってお互いに宣伝することも、広い意味での協働なのかと思うので、ぜひそういう困っていることや、実施していることをこういう機会で共有できればと思う。</p>
委員	<p>人権擁護委員から</p> <p>人権擁護委員では、保育園や小学校へ人権の読み聞かせということで行っている。その中で、子どもたちが自由に勉強できているか、遊べているか、自分の言いたいことを言っているか、ご飯をちゃんと食べているかという話をよくして、皆がはいと言ってくれてうれしく思っている。これまでの中間見直しでもあるが、子どもたちの声を聴くということについて。こども基本法でも、こども施策を策定したり実施、評価したりする場合に子どもの意見を聴いて進めるよう示されていたかと思うので、ぜひ、これからも子どもたちの声を聞いてもらい、この計画をよりよく実施されていけば。それがみんなが幸せになることへ繋がるのではないかと思う。</p>
委員	<p>茅野市PTA連合会から</p> <p>今年度、PTAでは、PTAカフェというものを企画し、開催しました。市内の各小中学校のPTA会長さんに集まっていたとき、PTAをやってみての問題点や、良いところ、悩みなど意見を出し合う場になった。なかなか、他の学校の状況を聞く機会はないので、次年度以降も引き継いでいってもらえたたらと思っている。</p>

委員	<p>諏訪児童相談所から</p> <p>今日は、地域の方、いろいろな活動をされている方の実状や思いを聞かせていただき、貴重な機会になった。計画については、児童相談所では茅野市さんとも連携しているのだが、困難を抱えた家庭が地域に多く、こども課の方、関係機関の皆様本当に日々ご苦労されていると思う。その中で、この支援事業計画はメニューが充実していて、それが予防へ繋がっていくと思うので、マンパワーの問題や、周知の問題もあるが、必要な方に必要な支援が届くように、苦しい家庭が少なくなるように願っている。感想だけになるが。</p>
委員	<p>長野県子ども・若者育成支援推進本部諏訪地方部から</p> <p>諏訪地域振興局の取組は、今日の話題にもあった子どもの居場所づくり。子ども食堂を中心として、その推進を県でも進めている。諏訪圏域では諏訪圏域子ども応援プラットフォームというもの作って、子どもの居場所づくりを進めている団体さんのネットワークやノウハウの強化をしている。この活動を盛り上げていく計画をプラットフォームでも議論していく、強化に繋がる仕組みや取り組みを進めていきたいと思っている。</p>
委員	<p>教育委員から</p> <p>教育委員会からとは違うが、先ほど話題に上がったファミリー・サポートについて。援助会員に登録している方は若干45人。私も活動に関わっているが、援助してほしいと思っている方は本当にたくさんいるので、皆様お時間があればぜひ研修を受けていただきたり、紹介していただきしたりしてもらいたい。繋ぎの面でいうと、保育園や小学校の先生方が、ファミリー・サポートというものがあるということで、いろいろなところから伝わっているようです。</p>
委員	<p>茅野市校長会から</p> <p>市内小中学校では、縄文のビーナスプラン、皆同じをやめる、ひとりひとりの多様性を伸ばす教育を各校で行っている。学級づくり、授業づくり、そして子どもをよく見ることを大切にしている。また、来年度は中学校区ごとに特色を出し、施設は同じではないが小中一貫という形で教育を行っていく。今は、校長同士でどうしたらいいかを学び合いながら作っているところ。</p>
副会長	<p>福祉21から</p> <p>今日の話で、ひとりひとりをピックアップしていく、ひとりひとりの思い、そういうものをピックアップしていかなければいけない。そして、それを繋げていく。大きなところへ繋げるためには、周知が必要で、それは絶対に1回ではいけない。嫌になるほど周知をしても繋がらないというのは、相手が手を挙げていないからだと思うが、一回でも手を挙げて偶然情報を得られたとしたら、きっと今度は自分が情報を流したいと思うようにはず。だから諦めないで何度も繰り返すことが必要だと皆さんの話を聞いて感じた。計画については、これをすべてきちんとできたら評価は120%になると思う。一番大切なのは、この計画の中で子どもや、その子どもに関わる人たちがどれだけ幸せを感じることができたかということ。毎年少しずつどこかを修正していかなければいけないと思うので、皆さんのお知恵をお借りして、ぜひ繋がっていただきたい。今年の役員さんは、学校などは特に、きっと来年は役員でないと思う。ただ、経験者は次の役員さんへ教えることができる。読り一むinちののように27年続いているというのは、き</p>

	<p>つとそのようにやってきたからだと思う。だからこそ、盛んな時もあれば低迷していることも。この計画も同じで、きっと皆さんの中にはもっと情熱を持っている方が必ずいると思う。だからぜひ繋がって、ご意見をいただきながら、任期が終わる方もずっと参加者のつもりで、ぜひ一緒に活動していきたいと私は思う。</p>
会長	<p>どんぐりネットワーク茅野から 最後にどんぐりネットワーク茅野から、今年はどんぐりプラン推進のつどいという市民集会を計画している。今年のテーマは学校再編。行政は財政の管理者として非常に努めているとは思うが、地域にとっての学校の意味をなかなか把握していないのではないか。そして、それは、そこに住んでいる人たちが自分のこととして訴えかけていく必要があるのではないか。学校教育の方では、地域対話を進めているようだが、そこで市民が自分たちの意見を言えるようになるような、投げかけができる集会を予定しているので、お時間がある方はぜひ来ていただければ。よろしくお願ひいたします。 他によろしいか。</p> <p>委員、事務局ともなし</p>
副会長	<p>5 閉会</p> <hr/> <p>20時45分終了</p>